

## 第4回 起業創出検討会議

「暮らし起業を考える～ワークショップからまちを変える～」のようす

- 開催日時 : 平成27年7月9日(木) 19時～21時  
開催場所 : 郡中まち元気サロン 来良夢(こらむ)  
出席人数 : 委員22名、アドバイザー4名、オブザーバー2名、事務局1名、  
合計名29名  
欠席人数 : 委員8名

### この会の目的

伊予市中心市街地等での起業と雇用の創出を図り、地域経済の発展と暮らしやすいまちづくりを進め中心市街地の活性化を図ります。

### 全体のスケジュールについて

- 平成26年度中に2回開催  
平成27年度中に概ね6回程度開催  
平成28年度には最初の開業者の誕生を目指します

### ワークショップのテーマについて

- 起業の業種について考える ― 数回開催  
起業者への支援のありかたについて考えます。

### ワークショップのグループ分けについて

- 3グループでワークショップをおこないます

### 次 第

1. 開会のあいさつ
2. ワークショップの進め方について  
アドバイザー 愛媛大学教授 前田 眞 氏
4. 「起業を応援する制度等について」  
伊予商工会議所 中小企業相談所 所長 篠崎 博志 氏  
オブザーバー 伊予市経済雇用戦略課 課長 向井 裕臣 氏  
アドバイザー 公益財団法人えひめ産業振興財団  
プロジェクトマネージャー 山口 誠 氏
5. ワークショップでの意見・感想発表  
グループA アドバイザー 公益財団法人えひめ産業振興財団  
プロジェクトマネージャー 山口 誠 氏  
グループB 株式会社 えひめリビング新聞社 取締役 編集長 小原 明美 氏  
グループC 特定非営利活動法人 まちづくり支援えひめ 代表 稲田 里香 氏

オブザーバー 伊予市経済雇用戦略課 課長 向井 裕臣 氏

〃 公益財団法人えひめ地域政策センター 研究員 川原 隆司 氏

6. ワークショップのまとめ アドバイザー 愛媛大学教授 前田 眞 氏

7. 閉会のあいさつ

## ワークショップの進め方について

アドバイザー 愛媛大学 教授 前田 眞 氏

### 「今日の目標」

前回までの話し合いの中で、また、三津浜の視察で、やったらいいこと。それをやったらいい人のイメージは見えてきている。

ただし、固有名詞が出てこない。そうになると、自分たちがどう関わったら良いかも見えてこない。固有名詞を生み出す環境づくりをしていかなければいけない。そのために何をしたらいいのかを探る。

### ○ 三津浜視察の参加者の感想

- ・ 地元の人・他所の人とのネットワークがある。異質な人たちを受け入れている。
- ・ 今ある物の価値を大事にしている。空き家をうまくイノベーションしている。
- ・ 若い人たちが（自分達の汗とペースで）活動できている。次世代へのバトンタッチができています。先進的である。
- ・ 公園が町の中にあって、子供たちの遊ぶ所とトイレがあるのが良い。
- ・ 松山市の重点支援がある。（松山市は、区域を絞って支援している）
- ・ 昼間でも薄暗い感じのするアーケードの取り壊し等、環境を変える力がある。
- ・ 家賃が安い。人に貸せるところがある。
- ・ 三津浜をどうしたら良いのかが見えてこない。塊としての繋がりを感じられない。点在しているので塊になると良い。通路が路地になっているのはプラスである。路地裏は、ミステリアスで魅力的である。
- ・ 起業している若い人の多数は、突然降って湧いてきたのでは無く、三津にゆかりのある人が多く、現在の三津があるのは、ずっと種まきをしてきたからだと思う。

三津の人たちに共通しているのは、そこにある建物や路地等空間の価値を共通して感じているところにある。それが三津の強みになっている。

人と人のつながりとか、目の前にあるものを大事にしていこう。というところから繋がっていくネットワークを、大事にできている。

閉鎖的な中でも、オープンでいろいろな人を受け入れている。そんなオープンさも学ぶべきかもしれない。

郡中も、同じ様な特徴・空間の意味とかを含めて皆で価値を共有していくことが大事で、その1つが「来良夢」で、いろいろな人が集まって、色々な事が出来始めたのは、ここの空間に力があるし、皆が価値を共感していることで繋がってきている。

ここだけでなく、まち全体にどう広げて行くのかを考えていかなければいけないかな、と思う。どういうことをしたら良いかを考えたい。

まち全体の支援もあるが、公的な支援が有効になる。今、個店・やりたい人への支援が充実してきているので、勉強できたらと思っている。

#### \*「起業を応援する制度等について」の説明

オブザーバー	伊予市経済雇用戦略課 課長	向井 裕臣 氏
伊予商工会議所	中小企業相談所 所長	篠崎 博志 氏
アドバイザー	公益財団法人えひめ産業振興財団	
	プロジェクトマネージャー	山口 誠 氏

今は、このような手厚い支援があって、うまく使えば自分たちの負担も軽くなる。

郡中でも、支援制度を使えることが増えて行けば良いと思う。自分達の周りで、創業とか第二創業、あるいは自分が第二創業をしたい時相談すると道が開ける。また、そういう相談を受けた時、専門機関に繋げていくと良い。ぜひ活用してほしい。

皆で、このような制度や、三津浜で感じたことをふくめて、自分たちは今後どういう目標をもってそういう人達を受け入れていくのか。そういう人達にとって、私たちが頑張らなければならない目標について話し合う。

このまえから、伊予市商業協同組合が”軒先を使って商売をして良いですよ“という支援を郡中で始めた。そういう応援が、色々な事を生み出すきっかけになる。今後アイデアを出して、やろうという人を見つけたり、自分でやろうという気になるきっかけになる事を考えながら、こんな事ができたら良いな、こんな応援ができたら良いなという事を、話し合っしてほしい。

#### ワークショップのようす

A、B、C 3グループに分かれて、

「起業を応援する制度等について」等を基にワークショップを行いました。

### グループAのワークショップの概要

- ・本当にここに客が来るのか、という疑問を持っている人が多い  
愛南に、びあびあナッツを食べさせる宿があって、かなり奥の漁村である、不便なところであるが、行って美味しかった。もう一度行きたいと口コミで伝える人がいる。そこに比べると、ここは便利なところであるが、ここに何の魅力を持って人が来るのであろうか？・・・と言う意見が皆から出た。
- ・一方で、たくさん人が来るのが良いと言うのは正しくないのではないか。という意見もあった。  
ほどほどで良いのではないか。誰でもウエルカムではなく、お客さんを選んで良いのでは。そういうことをしている町も実際にある。
- ・こういう人にリピーターとして来てほしい。たくさん群がるほどは要らない。  
適正規模のお客さんを、この魅力を、どう口コミで、安く発信できるか。
- ・ここ（来良夢）が、インフォメーションの位置づけにもなっているので、移住希望者とか色々な人たちに、どれだけアピールできているのか、していくのか。
- ・三津浜のように、お金を掛ければよいというものではないが、知恵を使えばまだまだやれることがあるのではないか。
- ・ほどほどのお客に来てもらうには何が必要か。もう少し深堀が必要ではないか。

### グループBのワークショップの概要

<三津の視察から>

- ・三津では、起業とまちづくりの両方を見たが、「起業する人」と「それを応援する人」がいると感じた。外から入るルートもあることから、余所者を受け入れる姿勢があるのかもしれない。
- ・三津視察では、組織の中に人の輪を感じ、人のつながりが読み取れた。果たして、郡中にもそれがあるのか。
- ・三津の新店舗は、おしゃれ感、イマドキ感、アート感があるデザイン。新たに何かをつくるのも大事かもしれないが、今あるものの集まりを活かすことを考えてみてはどうか。
- ・三津の人も、今のようなまちになることを想像していなかったと思う。計画的でなく、蓄積されたものが溶け合って、今の形になっているのではないだろうか。

<郡中ではどのようにしていくのか>

- ・今日、改めて商店街を歩いたが、空き家が多く、このままではいかんと思った。三津がなぜ、今のようなまちになったのかを考える必要がある。
- ・知り合いを郡中に呼び、商売することを勧められるか、と問われると難しいと思う。

- ・まち全体で取り組むことはできないだろうか。たとえば、出汁を活かし「健康のまち」をアピール。商店街を歩く仕掛け（〇キロカロリー消費など案内板を建てるなど）をつくるなど。
- ・最初はプチ起業をしてもらえるようにしてはどうか。1軒では弱い、3軒くらいあれば、話題になる。たとえば、今ある飲食店が出汁でつながるなど、テーマに沿って、同じ方向を向いてみてはどうだろうか。お互いが切磋琢磨もできる。いずれにせよ、何かキーワードは必要だろう。
- ・応援する組織が大事。つながりをつくる何かをしないといけないと感じる。
- ・都市に出ている親戚を呼び寄せられないか。または、町内で「あの人ならできそう」という人を引っ張ってくることはできないだろうか。
- ・伊予市郡中で起業するという理由が必要になる。補助金だけで呼び込むのは危険。自分で飛び込むくらいでないと、お膳立てしなければならないようでは不安である。
- ・郡中に来てくれるターゲットに向けて情報発信が必要。まちづくり郡中では、独自に支援メニューをつくったので、今後発信にも力を入れていく。

### グループCのワークショップの概要

4回目となる今回は起業を支える仕組みとして行政や商工会議所が開設している起業・創業のための資金調達の制度を学んだ。

#### 1. 資金調達のための制度を学んだ感想

- ・自分たちが商売をはじめた頃には、このような助成金はなかった。このような助成金が存在すること自体すごいこと。
- ・支援を受ける（助成金を利用する）事で先が見える。起業したいと思っている人には、とても役に立つ制度だと思う。
- ・これらの制度があることを多くの人に知ってもらうことは大切
- ・制度を知ることが、起業への思いを実現しようとするきっかけになるのではないかな。
- ・起業、創業だけでなく、既存事業所の第2創業のような内容に使用できる助成金もある。商店街の若い世代にも情報提供するとよい。
- ・起業というと何か大きな事をやるイメージがあるが、もっと身近なところで、例えば女性が趣味的にはじめた事が起業につながるといった事もあり得る。
- ・制度もある、「郡中」という場所もある、後は「やってみたい」という思いのある人をどのように発掘し支援していくかが課題。
- ・日々のつながりや活動の中に起業の芽はあるのではないかな？  
それらの芽を育てて起業後もサポートしていく機関、例えば、三津の「ミツハマル」のような組織が必要ではないかな？

公的支援制度について説明を受けたが、その気になる人が出てこない、公的支援は制度があるだけになってしまう。

こんなことをしたいという人達をその気にさせていく“輪”が必要なのかなと思う。

やりたい人がいたら公的支援は役に立つ。やりたい人をどうして生み出すか、その気になってもらうために、どんなことをしたら良いのか。

こういうサロンみたいなところで、世間話をしながら「何かやりたいね」。ここでいえば、ママ友みたいな人が話し合っ「何かやりたいね」。最初はビジネスではないが、徐々にビジネスに発展していく。そんなストーリーが描けていく。その時に先輩の商売人達が「自分はこういうことを思ってやり始めた」とアドバイスをしていく。繋がっていく場があることが大事。

ミツハマルのような形の組織にしていくのか、サロンみたいな機能として、そこにあるものの様にしていくのが良いのかは、いろんな議論がある。

公的支援の少し手前の部分で、やる気になる人を生み出したり、見つけたり、自分がその気になったりするようなやり方を、これからかんがえていくのが大事かと思う。

今回は、もう少し突っ込んだ話ができたら良い。

もう一つは、そういうことのできる町、というビジョンを共有しながらやっていかないと迷走する。いきなりビジョンがあるのではなく、話し合いの中で生まれてくると思うので、そういう話し合いを次回も続けていきたい。

### ワークショップについての感想

#### \* オブザーバー 伊予市経済雇用戦略課 課長 向井 裕臣 氏

今議会で「ロケツーリズム」の補正予算を計上した。昔は「グリーンツーリズム」「ブルーツーリズム」であった。グリーン・ブルーツーリズムで無くて次は「ロケツーリズム」ということは、何か新しいものを常に常に模索していかなければいけないのかなと思う。

その意味で、この様な会議が開かれ、話し合いを重ねていくのも、常に新しいものを模索していくというところで非常に重要なことではないかと改めて感じた。

#### \* オブザーバー 公益財団法人 えひめ地域政策研究センター 研究員 川原 隆司 氏

先日行った三津浜については、地元の資源に付加価値をつけて有効活用できている。と思った。

ある大学の先生が、「町おこしで成功するのは、強いリーダーシップを持った方・団体がいて、地元の人が気づかないものでも、外から来た人はすばらしいと思うものを見つけ、付加価値を付け、成功するまで情報発信を続けることが重要だ」と言っていた。

また、他所では、「すべての人が同じ方向を向いてやっていくことが欠かせない」とも言っていた。

今後も、このようなワークショップを重ねていくなかで、皆が同じ方向に進んでいくよう協力できたらと思っている。

統括アドバイザーとアドバイザーの皆さん



三津浜視察の感想を述べる委員の皆さん



会議の様子

